

13 エピローグ・淫魔王子イリウス

あらすじ：
勇者が落ち、魔王軍に下った後のことである。

魔王軍の王子、イリウスの部屋。
彼に奉仕する、一人の男がいた。
それは、むかし勇者と呼ばれていた者。

発情し、喜んで敵のペニスをしゃぶる、淫乱な男。
かつての面影はなく、快樂の赴くまま、奉仕を続けるのであった。

登場人物：
イリウス（魔族の王子）

プレイ：
フェラで、イリウスに奉仕する、足コキをされる。

=====

（魔王軍。王子の部屋。暗がりに、2つの影が浮かび上がる）

イリウス：
んっ…、んっ…、んっ…、はぁ…っ…♥
いいぞ…。そうだ…。もっと…、舌を使え…？

んっ……、はっ……、はっ……♥
うまいじゃ、ないか…♥
アルたちの調教は、いつも、完璧、だな…♥



ふふ…。
これが、かつて我々を苦しめた男だと…、
だれが、信じるだろうな…？

淫魔の王子である私の…、んっ…、はぁ…、はぁ…、
下着越しのペニスを、なめまわして…、
んっ…、はぁ…、はぁ…、んっ…♥

っと…♥
脱がせてきて。勃起した肉棒、嬉しそうに眺めて…、
頬ズリして…、んっ…、んっ…、はぁ…、はぁ…。
鼻をクンクン鳴らして、香りを楽しんでるのが、
あの勇者様だと、誰が、信じるだろうな…？

ふふ…、いいぞ…。
硬く、激しく反った竿や…、
張り出したエラを、舌の中央で、根の方で、ねぶったり…、
はぁ…、はぁ…、んっっ…、はっっ…。

先端でつついたりして…、責めるんだ…。
んっ…、っく…、んっっ…、はっっ…。

さすが、勇者様。飲み込みが、早い…。
舌の具合も、とても、いい…ぞっ…。
ザラザラの粘膜が、チンコの上、滑って…っ。。
んっ…、はぁ…、はぁっ…、はぁっ…。

んっ…♥
たまたま、先走り、でてきてしまった…。
ふふ。釘付けになりおって…。
吸いつきたいか？ これで、喉を、潤わせたいか？

いいぞ…。ただし、ゆっくりとだぞ…？♥
そうだ。唇すぼめて、鈴口に、キスをして…。
んっ…♥ んっ…♥ んっ…♥♥ んっっ…♥♥

吸い取って…、んっ…、んっ…、んっ…、んうっ…♥
それから。キスの度、徐々に深く、吸いついていって…。
んっっ…♥ んっっ…♥ んっっ…♥ んうっっ…♥

うぁ、くわえ、こまれて…、
亀頭を、んっ…、唇で、しご、かれ、る…っっ♥♥
んっっ…♥ んっっ…♥ はっっ…♥ はっっ…♥ はっっ…♥♥

カウパーに、お前の唾液も、まざって…♥♥
ぐちゃぐちゃの、ネバネバで…っ♥♥

うっっ…♥♥ はっっ…♥♥ うっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥♥
とろけ、そうだっ…♥♥
んうう…っっ♥♥

すごい、な…♥
カリに唇、ひっかけ、られて…♥♥ 往復、されて…♥♥
空気まざって、音、いやらしい、ぞ…っっ♥♥

はっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥♥

んっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥♥



なあ…、ところで、わかってるよな？
この部屋の様子は…、そこの水晶玉を、指輪を通じて。
隣の部屋の剣士様に、つつぬけなんだってことが…。

いいのか？♥ そんな、性奴隷のように、
魔族に奉仕してて、いい、のかっっ？？

んうっ…♥♥ はっ…♥ はっ…♥ はっっ…♥
うっ…♥ う、裏筋いつ…♥♥ 重点的、に…っっ♥♥

ふふ。ダメなのは分かっているが…、衝動が抑えられない…、
そんな、いい顔、だなっ♥♥
涙浮かべて、顔真っ赤で…、とっつても、そそる、ぞっ…♥♥

あううう♥♥うぐっっ♥♥はっっ♥♥はうう♥♥
そ、そこ…っっ♥♥
いっちょ前に、私の弱点、探りおって…♥

じゃあ、こうだ。こっちも手、伸ばして…。
お前の乳首を、両指で、つまん、でっ♥♥

ぎゅっっ♥♥
フェラチオする度、はさみこんで…、刺激、してやる♥

ぎゅっ…♥♥ ぎゅっ…♥♥ ぎゅっ…♥♥ ぎゅっっ…♥♥
ぎゅっ♥ぎゅっ♥ぎゅっっ♥♥

んっ…、はっ…、はっっ…♥♥ 気持ち、よさそうだな？
見事な働きには…褒美を出さないとな…？ ふふふっ…♥

んっ…♥ はっっ…♥ はっ…♥ はっっ…♥

はっ…♥ はっっ…♥ はっっ…♥ んう…♥

くうっ…、根本のほうまで…、喉使って、激しいっ…♥♥

いいぞ…♥ いい、ぞっ…♥ はっ…♥ はっっ…♥ はっっ…♥♥♥

くうう♥♥ これ、まるで、犯されてる…、みたいだ…♥

男の…、口まんこで…♥♥

んっっ…、はっっ…、うっっ…、はっっ…♥

こら、フェラしながら、自分のを触ってるんじゃない…。

ふふ。そんな顔を、するな。ジラしたいわけではない。

こう。私が、両足をのばして…。

お前のチンポ、挟み込んでやるんだからなっ♥

ほおら……、ぎゅっっ♥♥♥



くく♥ 私に負けないくらいに、カチカチではないか♥
魔族に奉仕して、そんなに感じているのか？ この、好き者め…♥

ん。その通りだ。

私も、お前を気持ちよくしてやる♥ 特別、だぞ？

ほら、両足合わせたまま…、激しく、前後させて…、

んっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥♥

はっっ…♥♥ はっっ…♥♥ んっっ…♥♥ はっっ…♥♥

どうだ？ 私の、足コキは♥
お前のフェラにあわせて、しごいてやる。

んっ…♥ はっ…♥ はっ…♥ はっっ…♥♥
はっ…♥ はっ…♥ はっっ…♥ はっっ…♥♥
口のねじりにあわせて、こう、左に荷重をかけたり…、
ぐちゅ…♥♥ ぐちゅ…♥♥ ぐちゅ…♥♥ ぐちゅ…♥

右にも、ねじったり…♥♥
ほらっ…♥♥ ほらっ…♥♥ ほらっ…♥♥ ほらっっ…♥♥
ほら、ほら、ほら、ほら…♥♥

んああ♥♥ こら、先っぽ、ペロペロペロって…
あっっ♥♥ あっっ♥♥ んうう♥♥ あ〜っっっ♥♥♥

な、なら、こっちもこうだっ。
先端、土踏まずで、ぐりぐりぐり、ぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり〜っっ♥♥
ふふふっ♥ 感じるな？ お互い、感じるな？

んっ…♥♥ んっ…♥♥ んっ…♥♥ んっ…♥♥ んっ…♥♥

はっ…♥♥ はっ…♥♥ はっ…♥♥ はっ…♥♥ はっ…♥♥

はっ…♥はっ…♥はっ…♥はっ…♥はっ…♥はっ…♥はっ…♥



んっっ??♥♥ ちょ、こら、睾丸、そんな、揉む、なっ…。。
んうう♥♥ コリコリ♥♥ んああ♥♥ はああ…♥♥
な、なにが、「上がってきてますね」、だ…。

お前のタマだって、
ほら、足の甲で、グリッ、グリッ、グリグリグリグリグリグリッ♥♥

こんなに膨らんで、きゅんって、上がりきっているではないか…♥

んっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥

竿も、こんなに、張りつめさせて…、

ふっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥

はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥♥♥

いきそう、いきそう、なんだろっ?♥

よし…、よしっ…、そのまま、フェラチオ、続けてるんだぞ…♥♥

こっちも、そろそろ、だからっっ…♥♥

うっっ♥♥ うっっ♥♥ うっっ♥♥ うっっ♥♥ うっっ♥♥

んっっ♥♥ んっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥

いくときは、一緒にだぞ?

快感が、けた違い、だからな…っ…!♥

んおっ…♥

頬肉の吸いつき激しく、なって…♥♥ しご、かれてっ…♥♥

うっっ♥♥ あっっ♥♥ あっっ♥♥ あっっ♥♥ あっっ♥♥

あっっ♥♥ あっっ♥♥ んっっ♥♥ ふああ…♥♥

も、もっていかれ、そうだっっ…♥♥

はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥

うっっ♥♥ あっっ♥♥ んっっ♥♥ あっっ♥♥ あっっ♥♥

なら、こっちも、こうだっっ♥♥

お前の乳首、また、つまんでっっ♥♥ ぎゅっっ♥♥

フェラに、足コキにあわせて、刺激、しまくるからなっっ♥♥♥♥

んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥

んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥!♥♥

ほら、イケっ♥♥ イって、しまえっ♥♥♥♥

淫魔の王子のチンコ、おもいっきりしゃぶりながらっ♥♥♥♥

んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥ んっっ♥♥

はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥ はっっ♥♥ はあっっ♥♥

自分の乳首も、チンコも、しごかれてっ♥♥

情けない顔で、絶頂して、しまえっ♥♥ ほらっっ♥♥♥♥

んっっ!♥んっっ!♥んっっ!♥んっっ!♥んっっ!♥♥

うっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥

のっ、のど奥まで、すい、こまれてっ…♥♥

あっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥

あっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥あっっ♥♥!♥♥

いく…! イクイク、イクうう…っっ!♥♥♥♥

女でも、こんな淫乱、そうは、いない、ぞ…。

いいぞ、セーシ急造して…、思う存分、飲ませて、やる…っ♥♥
はっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥♥ はっっ…♥
んっっ…♥♥ はあっ…♥♥ はあっ…♥♥ んあっ…♥♥

はあ……、はあ……、はあ……、はあ……。
はあ……っっっ…。

…

抜く、ぞ…？
ほら、いつまでもくわえているな…。
淫乱男めが…♥

ふう…っっ。

んっ…、はあ…、はあ…。
とても、良かったぞ…？
サキュバスと同等…、いや、それ以上だった…。

やはり、Hは、男同士に限るな…♥
真に敏感なところは、
女になど分かるわけがないからな…♥ ふふっ…♥

ほら、立てるか？
とと、私に寄りかかってきて。
んっ、ちゅふ、ちゅふ、ちゅふ、ちゅううっっ♥♥

んじゅ…。
淫魔の体液は、甘美な酒のようだろう？
胃から、体中に、染み渡って。
頭を、四肢をトロケさせるのだ…。

ふふ。目を泳がせて、ピクピク跳ねおって…。
少し休ませてやろうかと思ったが、続行だな…。
あむ♥ ちゅふ、ちゅふ、ちゅふ…。
我慢など、できそうにないわ…。

んちゅ、ちゅふ、んむ。
ちゅふ、ちゅふ、ちゅむ。

ほら、私のベッドへ、こい♥
お前に、本当の天国を味わわせてやる。

んっ♥
おまえの想像を越えた極上の快楽。
身体に刻み込んでやるからな…。

ふふふっ…♥♥
ちゅふ、ちゅふ、ちゅふっ…♥♥
んちゅ、ちゅふ、ちゅふ…♥